

2/2
目録

関電再稼働を堅持

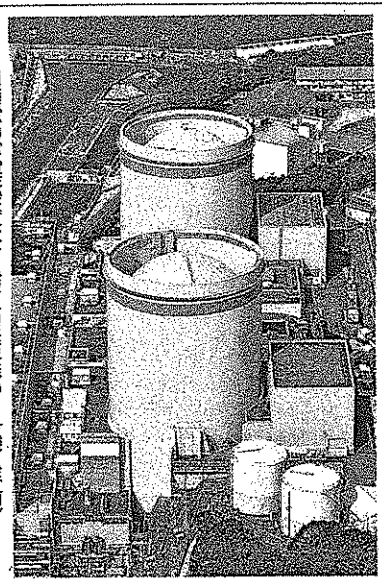
高浜1、2号機 行政も反対せず

老朽原発の安全性を争点に、関西電力高浜1、2号機（高浜町）の運転延長認可の差し止めを求めて県内や東海地方の住民が名古屋地裁への提訴に踏み切る。電力会社は採算性を重視して再稼働に突き進む。県内

では、行政にも反対の動きはない。④面参照
県内で稼働四十年超の原発は五基あり、このうち出力がいずれも五十万瓩以下と小規模な関西電力美浜1、2号機（美浜町）と日本原子力発電敦賀1号機

（敦賀市）は昨年三月に廃炉が決まった。
一方、原子力規制委員会が運転延長の認可を検討し、今回の訴訟対象となる関電高浜1、2号機の出力はいずれも八十万瓩超。同規模の出力で、今年十二月

に運転四十年を迎える美浜3号機についても、関電は「再稼働すれば月六十億円の審査を申請した。」
「再稼働すれば月六十億円の審査を申請した。」
「再稼働すれば月六十億円の審査を申請した。」



関西電力が運転延長を目指す高浜原発の1号機（手前）と2号機。28日、高浜町で、本社へ「あさつる」から

今日五日に美浜3号機を現地調査した規制委の更田豊志委員長代理は「今後三、三カ月がヤマ場」と述べ、十一月末の審査期限に間に合う公算が大きい。いずれも百十万瓩超の大出力を誇る大飯1、2号機（おおい町）も稼働二十六年だが、関電は「運転延長の申請を準備中」としている。
立地自治体も国の交付金や雇用面での経済効果を期待して背中を押す。高浜1、2号機が規制委の新規制基準に適合した二十四日、おおい町の中塚寛町長は「後続のひな型となることを期待したい」とコメント。美浜町の山口治太郎町長は「美浜3号機の審査にも弾みがつく」と喜んだ。
西川一誠知事は「四十年超の原発は、一般の原発よりもより慎重な議論がいる」と注文を付けたが、県として高浜1、2号機の再稼働の是非をどう判断するかについては明言を避けている。（高橋雅人）